

R5,1

↓()は、世帯数																
R4	15人/17人回収、回収率 88.2 %	1.よく・・・			2.まあ・・・			3.あまり・・・			4.まったく・わからない			回答なし		
R3	14(13)人/15人回収、回収率 93.3%															
R2	14人/16人回収、回収率 87.5%	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
(1)	職員は、ご家族の困っていること不安、求めていること等の話をよく聞いていますか？	12	10	11	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0
(2)	ケアホームでのご本人のご様子や健康状態、職員の異動などについて、ご家族にご連絡ができておりますか？	9	12	8	3	1	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0
(3)	職員は、ご本人の介護計画をご家族にわかりやすく説明し、一緒に、内容に関する話し合いをしていますか？	10	12	12	1	0	2	1	0	1				0	1	0
(4)	職員は、ご本人の思いや願い、要望などをわかってくれていると思いますか？	8	8	9	4	4	4	0	0	2	0	0	0	1	1	0
(5)	職員は、ご家族やご本人のその時々の状況や要望に合わせて、柔軟な対応をしていますか？	11	10	11	2	3	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0
(6)	ケアホームを利用するようになって、ご本人の生き生きとした表情や姿が見られるように	10	9	6	3	4	6	0	0	1	0	0	2	1	0	0
(7)	ご本人は、職員の支援などで、戸外の行きたいところへ出かけられていますか？	3	4	3	6	3	5	2	4	1	1	2	6	0	0	0
(8)	ケアホームを利用されていて、健康面や医療面、安全面について心配な点はないですか？	9	7	7	4	5	6	0	1	2	0	0	0	0	0	0
(9)	ケアホームは、ご家族が気軽に訪ねて来られやすい雰囲気ですか？	10	8	6	3	4	6	0	1	0	0	0	1	0	0	2
(10)	ご家族から見て、職員は生き生きと働いているように見えますか？	12	10	12	2	4	1	0	0	1				0	0	1
(11)	ご家族からみて ご本人は今のサービスに満足されていると思いますか？	11	11	11	2	1	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0
(12)	ご家族は、今のサービスに満足されていますか？	8	8	10	5	5	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0
(13)	その他、なんでもご意見を記入してください	*連絡ノートを活用し、細やかなコミュニケーションがとれています。臨機応変に対応していただき感謝します。 *あまり行きたがらないので、本人が楽しく行けるよう工夫してほしい。 *大変感謝しています。 *いつもお世話になります。これから、介護面において教えて頂きたいことが多くなると思います。が、よろしくお願いします。 *みわ記念病院を退院にして、一年が過ぎましたが、ここまで元気になるとは思っていなかったの。驚いています。日々の介護、リハビリ、訪問診察など連携しながらやってくださっているおかげだと感謝しています。コロナによる閉鎖の折には、摘便に来てもらい大変助かりました。閉鎖中に娘が来て、「さつきに行かないとボーっとしてきているよ」と言っていました。刺激のある環境が大切なのだと改めて思いました。私自身の体調が完璧ではないので、現在のようなスケジュールで今後も行けると大変ありがたいです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。 *良く気が付いて、お世話していただいて、嬉しいです。 *小規模ケアホーム、訪問看護ステーションの皆様には大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。困った時、不安なことがあれば、すぐ電話させてもらっていますが、いやな顔もせず、優しく笑顔で対応してくださり、仕事とはいえ頭が下がる思いです。患者の事はもちろん、家族の事まで心配して下さり、ショートステイも週2回にふやしていただきました。ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。ご協力、ご支援いただきながら、前向きにゆっくりゆっくり介護頑張ろうと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。														

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 みわ記念病院	事業所名	さつきの里看護小規模ケアホーム
所在地	(〒719-0106) 岡山県浅口市金光町地頭下284-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

住み慣れた地域で、「認知症になっても」「療養をしながらでも」「最期を家族と迎えることも」、さつきの里の目標である「おもてなしの心をもって」を掲げ、職員一丸となって支援しています。

ケアホームでは、特に、環境整備に力を入れています。「居心地のいい環境を提供しよう」ということで、ハード面はもちろん、職員のあいさつ、雰囲気、静かな空間など利用者様が落ち着いて過ごせるように 日々試行錯誤しながらサービスの提供をしています。

看護小規模多機能型居宅介護ならではの柔軟な対応として、急な「泊り」、体調に合わせた「通い」、そして訪問看護や訪問介護で健康な生活を維持できるよう支援しています。「通い」では、季節の行事やドライブなど、利用者様と一緒に、笑い、楽しんで、「訪問介護」を増やし、在宅生活のリズムの調整を図っています。事業所内の理学療法士と連携し、個別性の高い専門的なリハビリも行い、機能維持に努めています。「泊り」では、看護職員がオンコール体制を取っており、利用者様にも、働く介護職員にも、安心して過ごせる夜間を提供させていただいています。

去年はコロナウイルス感染症のクラスターが発生し、ご迷惑をかけましたが、ウイズコロナとなっても、より一層感染対策を講じて、在宅生活が安心安全に過ごせるように、注力していきます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 2 月 28 日	従業者等自己評価 実施人数	(17) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 24 日	出席人数（合計）	(6) 人 ※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	■自事業所職員（2人） ■市町村職員（1人） □地域包括支援センター職員（ 人） ■地域住民の代表者（2人） □利用者（ 人） □利用者の家族（ 人） ■知見を有する者（1人） □その他（ 人）		

■前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・看護小規模多機能型居宅介護サービスとして、地域で唯一の看護サービスができる事業所として、更に住み慣れた家で在宅での療養をしながら続けられるように、利用者・家族のニーズに合わせ対応していく。 ・新型コロナウイルス感染症には気を付け、オンライン研修や事業所内での研修も含め、職員のスキルアップができるように、個別の目標を立て、年1回の外部研修、内部研修2回以上の参加を推奨していく。家庭との両立のため、内部研修のほうを4回から5回に増やして研修機会を確保する。 ・365日24時間対応の事業所なので、職員の確保をし、働きやすい職場づくりのため、有給休暇（時間有休）を活用し、コミュニケーションを図り職員が元気で	・理念・ビジョンなど事業所に掲示 ・さつきの里評価表での自己評価・管理者評価の実施 ・感染防止対策委員会の実施 ・虐待防止委員会の実施 ・ヒヤリハット・イベントレポートの記入を元に検証、対策検討。 ・定期ミーティングや申し送りによる情報共有や意見交換 ・コロナ感染によるクラスターの対応。スタッフ間の協力体制 ・コロナ禍でのオンライン研修参加 ・研修内容の伝達 ・就業規則へのハラスメント対策の位置づけ	・今年度は、医療ニーズの高い利用者を含め、要介護度の平均3.2と高くなってきた。看護職員と介護職員と連携して利用者のケアを行ってきた。看護職と介護職と一緒に訪問をすることや、訪問看護・リハビリを合わせたサービスで、事業所の理念にあわせたサービス展開を行っている。 ・新型コロナウイルス対策では、事業所でクラスターが出たが、職員一丸で訪問サービスを利用者に提供し、職員が療養できる体制もとっていた。 - 職員不足であるが、業務改善により、休憩が取りやすくなってはいる。しかし、職種・役割によっては、オーバーワークは否めない状態、補充が急務。	災害時におけるBCPの重要性を鑑みて、出来るだけ早く作成して下さい。 事業所の長所を生かし、多職種等と連携して地域に必要なサービスができていると思います。 前回の改善計画に対する実施した具体的な取組の記載がありません。（計画が曖昧なものもあります。）

		明るく、利用者・家族にかかわれるようにする。 ・看護職員と介護職員の情報共有、看護職員からの介護職への指導・助言で、細やかな予測の下、サービス提供を行う。 ・災害マニュアルの見直し、訓練の実施、業務継続計画（BCP）の作成、感染防止対策・委員会の開催、ハラスメント対策など着手していく。		・研修はリモート研修を主にして、職員のほぼ全員が年3回以上の研修を受けることができ、伝達も行った。人手不足で、研修機会が確保できない部分もあり、目標値までは達成できなかった。 ・さつきの里グループで、ハラスメント対策、感染防止委員会、虐待防止委員会など立ち上げ、開催、研修も行った。業務継続計画（BCP）については、法人との協力体制も加味しながら、今年度計画している。	
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供（評価項目 11 ～ 27）	・病院や施設から、在宅復帰ができるように、入院（所）中から連携を取りながら、次回受診には、病医院へ在宅の様子を報告し、病状の安定した生活が送れるよう介護・看護サービス提供する。特に理学療法士の専門的意見を取り入れ、在宅環境を整えていく。 ・中心は「通い」であるが、訪問介護・看護を効果的に取り入れて、生活の中での機能訓練ができるように柔軟に組み合わせながら、提供していく。	・入院時には、医療連携シート等で、在宅での生活について情報提供。 ・退所（居宅変更時）には、むすびの和のアセスメントシート等を利用して情報提供。 ・病状の変化や相談等は受診に同行や、書面を家族に預けるなどして、情報提供。 ・申し送り時に問題提起があるときは、専門的に看護師やリハ職から助言、指導。 ・2月に1回の運営推進会議（資料持参時、地域の話をする）	・日々の変わっていく利用者の状況を介護面・医療面について、多職種の意見を聴きながら、情報共有を行った。情報共有のツールとしては、朝夕の申し送りで、ポイントを押さえる。介護・看護・リハビリが同じ記録ファイルに記入することで、職員全員が同じ時系列で情報をえられるようにしていた。 ・サービス提供にかかわって、疑問や気づきを看護職・リハ職に伝え、その都度指導・助言をもらってより良いサービスへ結びつけ、今後も継続が必要。	記録ファイルを工夫することによって、情報共有をスムーズに行うことができるようになっている点を評価します。
	2. 多機関・多職種との連携	・利用者様・家族様を取り巻く、多職種・多機関との連携を入院（所）中から行い、計画に反映できるように、関わっていく。	・コロナ禍で、地域参加できていない。 ・独居の方は、近隣の方や民生委員さんとのつながり。サロンや会合の状況など話す。	・コロナ禍で地域との交流があまりなかったが、送迎や訪問のときに、地域の方や家族との世間話などで、利用者と地域との関わりを知るように	事業所側からの働きかけをしている点はいいです。

	(評価項目 28 ～ 31)	・看護サービスを必要とする医療度の高い利用者には、医師の指示の下、専門的見地から療養ができるように看護職・リハ職が対応し、介護職への指導も行っていく。	・地域ケア会議や圏域会議の参加ケアホームだより・さつきの里便り 配布。	した。そして、利用者へのケアの一助としている。 ・地域ケア圏域会議には、一部しか出席できなかった。 ・ケアホームだよりやさつきの里だよりで、ホームでの活動を情報発信したが、ホームページはほとんど更新が出来ていない。 ・コロナ禍と人手不足で、集まりに出かけることがほとんどできなくて、地域への発信は出来ていない。	地域ケア圏域会議は地域のことを知る良い機会なので、できるだけ参加して欲しいです。 ホームページは多くの人が事業所の概要や様子を知る上で重要なツールなので出来るだけ更新して下さい。 少しずつ新型コロナへの対策が変わるなかで地域での活動を深めてください。 コロナ感染拡大防止のため、他者との交流やイベント等が制限され、やむをえない面もあるが積極的なHPの活用など図ってください。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32 ～ 41)	・地域との交流を職員も積極的に持つことで、利用者様・家族様の地域でのかかわりが増えるようにしていく。 ・地域の圏域会議には、管理者・ケアマネ以外にも積極的に参加し、地域の現状を職員皆が実感して、利用している方々の現状に照らし、何が必要で、何ができるのかを検討し、介護計画にも盛り込みサービス提供へつなげる。	・コロナ禍で、地域参加できていない。 ・独居の方は、近隣の方や民生委員さんとのつながり。サロンや会合の状況など話す。 ・地域ケア会議や圏域会議の参加ケアホームだより・さつきの里便り 配布。	・コロナ禍で地域との交流があまりなかったが、送迎や訪問のときに、地域の方や家族との世間話などで、利用者との関わりを知るようにした。そして、利用者へのケアの一助としている。 ・地域ケア圏域会議には、一部しか出席できなかった。 ・ケアホームだよりやさつきの里だよりで、ホームでの活動を情報発信したが、ホーム	事業所側からの働きかけをしている点はいいです 地域ケア圏域会議は地域のことを知る良い機会なので、できるだけ参加して欲しいです。 ホームページは多くの人が事業所の概要や様子を知る上で重要

		・便りやHPなどで情報発信も積極的にいき、地域包括ケアシステムの中の一員として、利用していただきやすい環境を地域のサロンや民生委員さんの集まりやキャラバンメイト活動など通してPR、啓発活動していく。		ページはほとんど更新が出来ていない。 ・コロナ禍と人手不足で、集まりに出かけることがほとんどできなくて、地域への発信は出来ていない。	なツールなので出来るだけ更新して下さい。 少しずつ新型コロナへの対策が変わるなかで地域での活動を深めてください。 コロナ感染拡大防止のため、他者との交流やイベント等が制限され、やむをえない面もあるが積極的なHPの活用など図ってください。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	・利用者様・家族様の意思に寄り添い、住み慣れた家で在宅生活がおくれるように、コミュニケーションを取って行く。 ・高齢者の終末期の不安は、突然にやってくるかもしれないことに、しっかり目を向け、どのような生活が送りたいか、計画の見直し時等に話し合っていく、対応ができるようにしていく。 ・高齢者同士の老々介護、独居など不安定要素には、特に寄り添って、安心して安全な在宅生活へつなげていく。	・終末・緊急時は、確認書の利用で意向確認をするが、それでも、いざとなれば、入院を希望されるケースはある。その思いに寄り添って、ケアを行った。 ・独居や高齢者世帯の方の在宅生活維持のため、していることの継続、できることのお維持を大事に関わっている。	利用者様・家族様の思いを大切に、寄り添ったサービス計画目標の達成が、アンケートからほぼ全利用者できている。今後も利用者・家族の思いを大切にかかわっていくことで、理念である今の力を生かしてくらしていけるよう支援していく。	満足度の高いサービスを今後も続けていけるようにお願いします。 利用者等に対して連絡ノートなどで意思疎通が図られており、事業としての役割を十分果たしていると思います。 実施した具体的な取組の記載がありません。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します。

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・今年度は、医療ニーズの高い利用者を含め、要介護度の平均3.2と高くなってきた。看護職員と介護職員と連携して利用者のケアを行ってきた。看護職と介護職と一緒に訪問をすることや、訪問看護・リハビリを合わせたサービスで、事業所の理念にあわせたサービス展開を行っている。 ・新型コロナウイルス対策では、事業所でクラスターが出てしまったが、職員一丸で訪問サービスを利用者に提供し、職員が療養できる体制もとっていった。 - 職員不足でオーバーワークは否めない状態、補充が急務。 ・研修はリモート研修を主にして、職員のほぼ全員が年3回以上の研修を受けることができ、伝達も行った。人手不足で、研修機会が確保できない部分もあり、目標値までは達成できなかった。 ・さつきの里グループで、ハラスメント対策、感染防止委員会、虐待防止委員会など立ち上げ、開催、研修も行った。業務継続計画（BCP）については、法人との協力体制も加味しながら、今年度計画している。	・看護小規模多機能型居宅介護サービスとして、地域で唯一の看護サービスができる事業所として、更に住み慣れた家で在宅での療養をしながら続けられるように、利用者・家族のニーズに合わせ柔軟に対応していく。 ・新型コロナウイルス感染対策を十分にして、オンライン研修や事業所内での研修も含め、特に医療ニーズに対応できる職員のスキルアップを目標に、年1回の外部研修、内部研修2回以上の参加を推奨していく。365日24時間対応の事業所なので、職員の確保をし、働きやすい職場づくりのため、有給休暇（時間有休）を活用し、職員と管理者との面談機会を作り、コミュニケーションを図り職員が元気で明るく、利用者・家族にかかわれるようにする。 ・看護職員と介護職員の情報共有、看護職員からの介護職への指導・助言で、細やかな予測の下、サービス提供を行う。 ・災害マニュアルの見直し、訓練の実施、業務継続計画（BCP）の作成、虐待防止、感染防止対策・委員会の開催、訓練などグループ全体で実践していく。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27) ・日々の変わっていく利用者の状況を介護面・医療面について、多職種の意見を聴きながら、情報共有を行った。情報共有のツールとしては、朝夕の申し送り、ポイントを押さえる。介護・看護・リハビリが同じ記録ファイルに記入することで、職員全員が同じ時系列で情報をえられるようにしていった。 ・サービス提供にかかわって、疑問や気づきを看護職・リハ職に伝え、その都度指導・助言をもらってより良いサービスへ結びつけ、今後も継続が必要。	・病院や施設から、在宅復帰ができるように、入院（所）中から連携を取りながら、次回受診には、病医院へ在宅の様子を報告し、病状の安定した生活が送れるよう介護・看護サービス提供する。特に理学療法士の専門的意見を取り入れ、在宅環境を整えていく。ホーム内でも、リハビリ指導を、研修を交えながらやっていく。 ・中心は「通い」であるが、訪問介護・看護を効果的に取り入れて、生活の中での機能訓練ができるように柔軟に組み合わせながら、提供していく。

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)		・利用者様・家族様を取り巻く、多職種・多機関との連携を入院（所）中から行い、計画に反映できるように、関わっていく。 ・看護サービスを必要とする医療度の高い利用者には、医師の指示の下、専門的見地から療養ができるように看護職・リハ職が対応し、介護職への指導も行っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	・コロナ禍で地域との交流があまりなかったが、送迎や訪問のときに、地域の方や家族との世間話などで、利用者と地域との関わりを知るようにした。そして、利用者へのケアの一助としている。 ・地域ケア圏域会議には、一部しか出席できなかった。 ・ケアホームだよりやさつきの里だよりで、ホームでの活動を情報発信したが、ホームページはほとんど更新が出来ていない。 ・コロナ禍と人手不足で、集まりに出かけることがほとんどできなくて、地域への発信は出来ていない。	・コロナ禍で地域との直接的な交流は、まだ難しいが、ホームの周辺での活動（畑作業や散歩、日光浴など）をして、地域の目に触れるようにしていく。ご近所の方に自宅での様子をうかがうことで、利用者の生活の課題に対応していく。 ・地域の圏域会議には、管理者・ケアマネ以外にも積極的に参加し、地域の現状を職員皆が実感して、利用している方々の現状に照らし、何が必要で、何ができるのかを検討し、介護計画にも盛り込みサービス提供へつなげる。 ・便りや HP など、担当者を決めて、情報発信も積極的に行い、地域包括ケアシステムの中の一員として、利用していただきやすい環境を地域のサロンや民生委員さんの集まりやキャラバンメイト活動など通して PR、啓発活動を継続していく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		利用者様・家族様の思いを大切に、寄り添ったサービス計画目標の達成が、アンケートからほぼ全利用者できている。今後も利用者・家族の思いを大切にかかわっていくことで、理念である今の力を生かしてくらしていけるよう支援していく。	・利用者様・家族様の意思に寄り添い、住み慣れた家で在宅生活がおくれるように、コミュニケーションを取って行く。 ・高齢者の終末期の不安は、突然にやってくるかもしれないことに、しっかり目を向け、どのような生活が送りたいか、計画の見直し時等に話し合っていき、対応ができるようにしていく。 ・高齢者同士の老々介護、独居など不安定要素には、特に寄り添って、地域の方と連絡を取り合いながら、安心で安全な在宅生活へつなげていく。

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○					✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・新規の利用者・家族にパンフレットを用いて理念について説明している。 ・事業所内にも理念を掲示している。 ・医療ニーズの高い利用者（要介護４・５の方が半数以上）を積極的に受け入れ、家族も含め安心して過ごせるよう支援している。					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			理念を深める方法についてもう少し具体的にと思います。 職員に理念の徹底を実践してください。	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・1つの事業所で一体化していることにより、「通い」「泊り」「訪問介護」「訪問看護」を柔軟に組み合わせ、プランに反映して、急な対応にも柔軟に対応している。職員もニーズを理解し対応している。 ・急な対応をすることで、ご家族も安心して介護負担の経験に結びついている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・新人職員には、オリエンテーションの時に理念を説明し、理解できるように説明しているが、もっと深める必要がある。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			研修計画を個別に立てている点は良いと思います。 個々の職員の育成計画、その達成状況はどうなっていますか？	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			外部の研修は多くが中止され、受講が困難な状況ですが、リモート研修や内部研修を充実するなどの取り組みを図ってください。 引続いて研修の機会を作ってください。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○				定期的な申し送りなどで情報共有ができています。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・朝の申し送りは、出勤者が全員で聴き、情報共有する場となっていて、その後ミニカンファレンスをして、ポイントを押さえるようにした。 ・医療的ケアも多い中、看護・介護の役割についても話し合っケアに臨めるようにしている。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている			○		運営推進会議が開催されず、状況報告だけとなっているが、メール等を利用して要望、助言を得てはどうでしょうか。 定期的な文章の配布をいただきその際等で現状や要望への対応を知らせてもらっています。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・コロナ禍で要望を得ることが減っている。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			難しいと思うが、職員の確保に努めて下さい。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・コロナ感染拡大で、法人のルールに従って、感染対策（県外移動に関する本人・家族について）をし、PCR 検査を実施して業務につくようにしていた。 ・第8波になり、県からの抗原検査の集中検査を行い、安心感を得て業務をしている。 ・急な職員の休みにも、職員間で協力し合っている。 ・職員、その家族の体調不良にも休みやすい環境。 ・業務の見直しで、休憩を1時間とれるようになった。 ・職員不足で、時間外の業務や煩雑な時間がある。介護助手の配置の検討。 ・見守りセンサー利用やドライブレコーダーを使用して安全に配慮している。				明るい職場環境が感じられます。 コロナウイルス感染症の対策は、できているようです。休みの取りやすい環境、休憩を1時間とれるようになったとあるが、改善計画のなかで人手不足でオーバーワークで、補充が急務となっているというのは、どういことでしょうか。	✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				利用者等の情報の随時更新、共有ができていると思います。 ファイルを同じものを使うことで、情報共有と時間短縮に繋がっています。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容]					
		・朝・夕の申し送り時に問題点や新しい情報を共有できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・シフトにより、申し送りの時間に出席できない職員にも、日勤リーダーよりポイントの申し送りをするようにしている。 ・ケアの留意点・ケアプラン等で確認できている。 ・介護・看護・支援記録すべて、同じファイルに記入して、新しい情報を得ることができるようにしている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			ヒヤリハット訓練等はマンネリ化しやすく、緊張感が薄れていきます。所内での具体例など工夫してください。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・イベントレポートや、ヒヤリハットノートの活用をして、対策を講じて、事故防止するようにしている。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			2024年4月にBCPの策定が義務化されるため、早めの取り組みをしてください。 緊急時の体制は、平常時から訓練を徹底することで機能します。定期的に実践してください。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケア
		[具体的な状況・取組内容] ・火災においては、避難訓練を定期的に行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・マニュアル、緊急連絡先リストで共有されている。				評価の補充に「安否確認方法の明確化」、「連絡先のリストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」、などが挙げられていますが、これらの対応はどうでしょう。	のマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			一括した記録を作成することができれば、アセスメントにも役立つのでそのようにしてほしいです。 利用者一人ひとりを細かく把握されています。 独居の利用者も多く、本人や家族からの情報だけでは状況把握できない場合もあります。地域の住民などにも情報を得て、記録することが大事です。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセス		○			ファイルをまとめているのは情報が共有しやすいため良いことだと思います。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	メントの結果が、両職種の間で共有されている	・日々の通い・訪問時の記録により把握できている。 ・訪問看護指示書の報告の共有 ・介護・看護をまとめて一つのファイルで管理・共有している。 ・質問しやすい、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。				共有の工夫が行われ、実施されています。 介護職・看護職のファイルを一本化することで、情報共有できていると思います。	✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			利用者本人の意向を把握することが、難しい場合もあると思いますが、適切な対応をお願いします。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		【具体的な状況・取組内容】 ・本人・家族の意向を聞いて計画表を作成している。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			機能の維持回復には、利用者本人のやる気が重要な要素です。目的意識を持って計画遂行できるよう作成してください。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		【具体的な状況・取組内容】 ・「出来ている」ことを続けていただけるように、声掛け、見守りをして、「頑張ればできること」への援助をしていけるように、計画に盛り込むようにしている。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			看護職が参加している点が評価できます。 状況変化に合わせ、随時計画を変更してください。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	○				利用者特有の事情も考慮し、計画へ反映させてください。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17		○					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ケアマネが定期的に訪問しているので、状況の変化に対応できている。 ・通い・泊りの連続の方もいるが、在宅へ少しでも帰られるにはと、家族と話しあい、家族の意向も踏まえた計画作成をしている。				利用者の状況変化を踏まえ、流動的に訪問時期の変更も考えられます。	✓ 利用者の状況変化を踏まえ、流動的に訪問時期の変更も考えられます。
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			介護職との情報共有はどうなっていますか。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・母体の主治医との訪問看護のカンファレンスを月1回カンファレンスの開催により共有している。 ・他院の主治医とは、訪問看護指示書での報告や書面などで情報共有できるようにしている。							
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○				業務状況によって、役割分担ができていますでしょうか。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護で
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・申し送りや記録にて状況把握しサービス提供に活かす。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		・記録、ケア等で分担できている。何かあれば、看護師に報告する。 ・人手不足の中、看護職も訪問介護に行き体調管理の役目も担っている。 ホームでは、看護職と介護職とペアでケアをすることで、専門性を発揮している。					は、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○				事業所の特徴をいかして、連携ができています。 業種間の連携がとれていると思います。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	○				事業所の特徴をいかして、連携ができています。 看護師から介護職への情報提供ができています。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			ケアマネだけでなく、他の職員も説明できるようになるといいです。 利用者等への情報提供は、ケアマネージャーでも差し支えないと思いますが、職種に関係なく情報の共有を図って下さい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				写真、図式などの工夫が見られます。 利用者等が納得することで計画達成の度合いが向上すると思います。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ケアマネが説明している。 ・連絡ノートや写真・図式などでわかりやすく説明した。 ・説明した内容について、職員が理解して、理解できているかどうか、また説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				理解するまで説明をする努力をしています。 専門的な知識がなくとも図などで解りやすい説明をお願いします。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療的な機器についての説明や指導については、パンフレットや図式をして伝えてはいるが、理解しているかどうか、					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		看護職だけでなく、介護職も利用者・家族から情報を得て、また説明をするなど、理解が得られるようにしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			日頃から、利用者本人の希望や意向を確認し、サービス提供に反映させてください。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・「思い」について、カンファレンス等で話しあい、出来るだけ近づけるようにサービス提供をしている。 ・終末における本人・家族の意向を確認反映して柔軟に計画し、サービス提供している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			予め在宅生活の継続の可否の状況を想定し、事前に相談、共有してください。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・在宅継続が難しくなった方のご家族と現状を話し合い、スムーズに施設への移行が行えている。 ・日々の家族の言動を記録に残すようにして、家族の意向について対応方針等を情報共有している。					
27			○				

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・新規の利用者様には、どのように対応したいと考えているか、聞いている。プランの更新時には、再度話をして、記録している。 ・終末期までの説明をしている。				説明した内容や対応等の記録は残していますか。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				メディカルソーシャルワーカーとの連携は在宅生活への移行に向けて非常に有用です。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			対応できていると思います。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生す

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・ 訪問看護指示書の報告時、適宜医師と面談し、疑問点や方針など相談・共有している。 ・ 緊急時は、どこに連絡するか確認を主治医、家族にしている。					る前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている			○		休日、夜間の体制はどうなっていますか。 医療機関等との連携はどうなっていますか。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> ・ 初回面談時、本人家族に急変時の対応について、確認書を用いて対応方法を確認している。2 か所以上の連絡先の確認をして、ファイリングし、急変時の対応に役立てている。 ・ 看護職へのオンコール体制により対応している。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職			○		対面での会議が増えれば情報交換もスムーズになると思います。 随時情報交換ができています。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> ・ 運営推進会議の開催が少なく、書面報告が多かったが、資料を持参するときにお話して、近隣の情報など得るようにし					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	員等への情報提供や提案が行われている	た。その時に地域の様子を伺い、職員伝達をした。				コロナ禍において運営推進会議が開催されておらず、難しい状況です。	✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			回覧と同時にサーバー内に置く等いつでも誰でも見られるようにすると良いと思います。 迅速な情報発信に努めてください。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・記録・資料を見ることができる。 ・会議内容を早急にまとめ、回覧している。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		広報誌や HP は有効な情報発信です。十分な活用をお願いします。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・広報誌・さつきの里だより・ケアホームだよりの配布。 ・ホームページのブログ更新がほとんどできていない。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		○			人員が少ない中で応援が来ています。 登録者以外の訪問看護のためには看護職の充足が必要です。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		研修を受けて対応できる職員を増やすことで受け入れていってください。 介護職員の喀痰吸引等研修を積極的に行い、対応できる者を確保してください。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
36					○		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・「人工呼吸器」を利用する施設整備ができていない。					✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		人員確保をお願いします。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○		自身が地域包括ケアシステムの一員であることの意識を持っています。 地域包括ケアシステムについての理解を深めてください。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		はおおよそしているが、日々の業務の下では、 実感がわからない職員が多い。					✓ 地域包括ケアシステムの構築方 針や計画などが無い場合は、「全 くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアにつ いて、特定の集合住宅等に 限定せず、地域に対して積 極的にサービスを提供して いる	○				特定の集合住宅等に限定せず、 提供されていると思います。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しな い、地域への積極的な展開」につ いて、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、 特定の集合住宅等に限定するこ となく、地域全体の在宅療養を支 える核として機能していくこと が期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象と している場合は「全くできていな い」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地 域の関係者に対し、必要に 応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている			○		課題提起や改善策の提案は、サ ービスの向上に繋がります。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の 取組」について、その充足度を評 価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ て得た情報や知見、多様な関係者 とのネットワーク等を活用し、必 要となる保険外サービスやイン フォーマルサービスの開発・活用 等、利用者等のみでなく地域にお ける課題や改善策を関係者に対

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		サロン等を通じて、介護を身近なものとして感じてもらうようにすると良いです。 独居もしくは高齢者だけの所帯の割合も多く、コロナ禍のなかでは、一層の地域住民の協力が欠かせないと思います。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない。 <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・在宅維持が出来るように支援できていると思う。	概ね達成できていると思います。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療的な処置や日常生活の相談等により、安心感が得られている。	概ね達成できていると思います。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	人員確保することで体制が確保してください。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービス

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	およびその家族等において、 在宅での看取りに対する安心 感が得られている	3. 利用者の1/3くらいについて、達成され ている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・いざ、看取りの場面になれば、病院へ入院 したい家族もいるため、その思いには寄り添 っている。		の提供により実現された「在宅での 看取りに対する安心感」について、 評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・ 泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない 場合は、「5. 看取りの希望者はい ない」